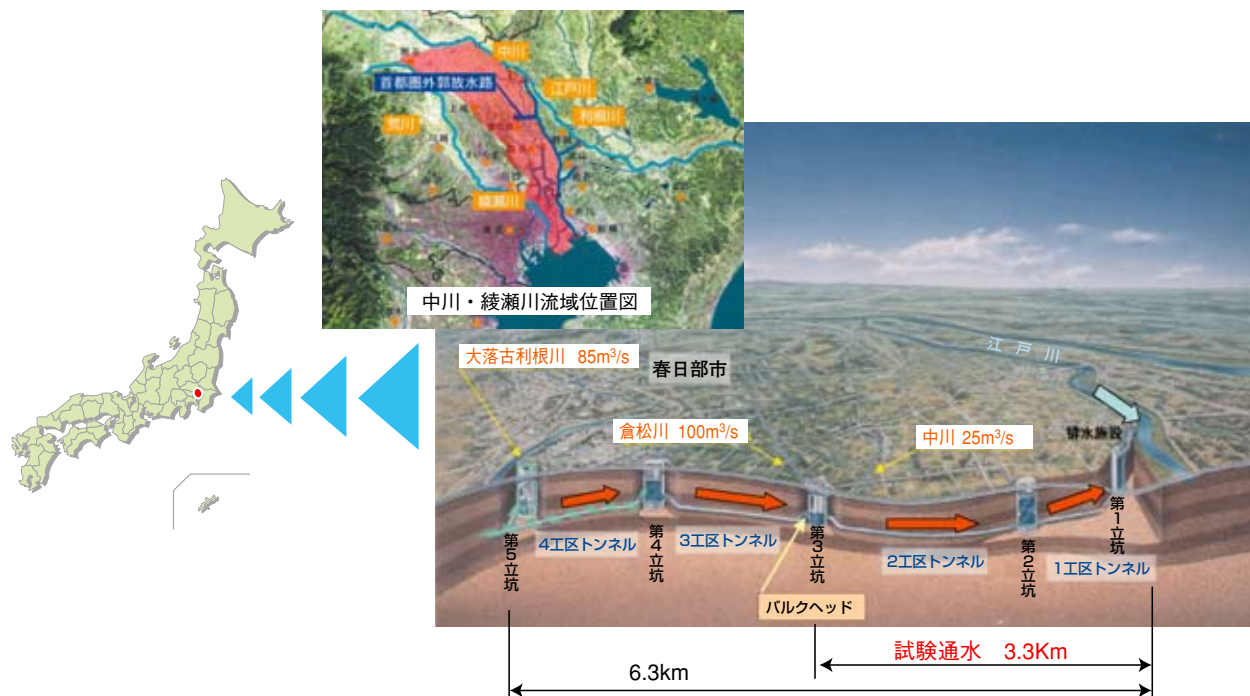
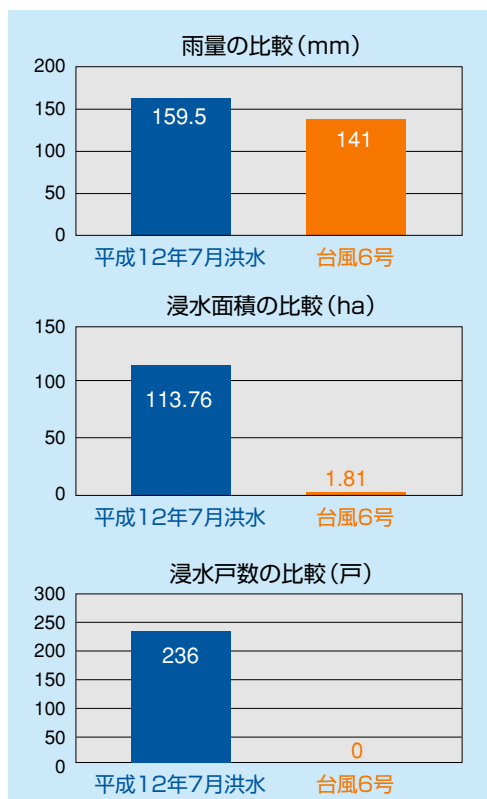


首都圏外郭放水路の効果

首都圏外郭放水路は中川中流部の国道16号の地下50mに直径10mのトンネルによる地下河川を6.3km（埼玉県春日部市～庄和町）建設し、中川等の水を江戸川に排水することによって浸水被害を大幅に軽減するものでこの内3.3kmについて平成14年6月8日に試験通水しました。



平成14年の台風6号により中川・綾瀬川流域では、平成12年7月とほぼ同規模の141mmの雨量を記録しました。当時と比べ、首都圏外郭放水路の試験運用により、その周辺地域での浸水家屋が無くなりました。



※雨量については流域平均雨量（48時間）



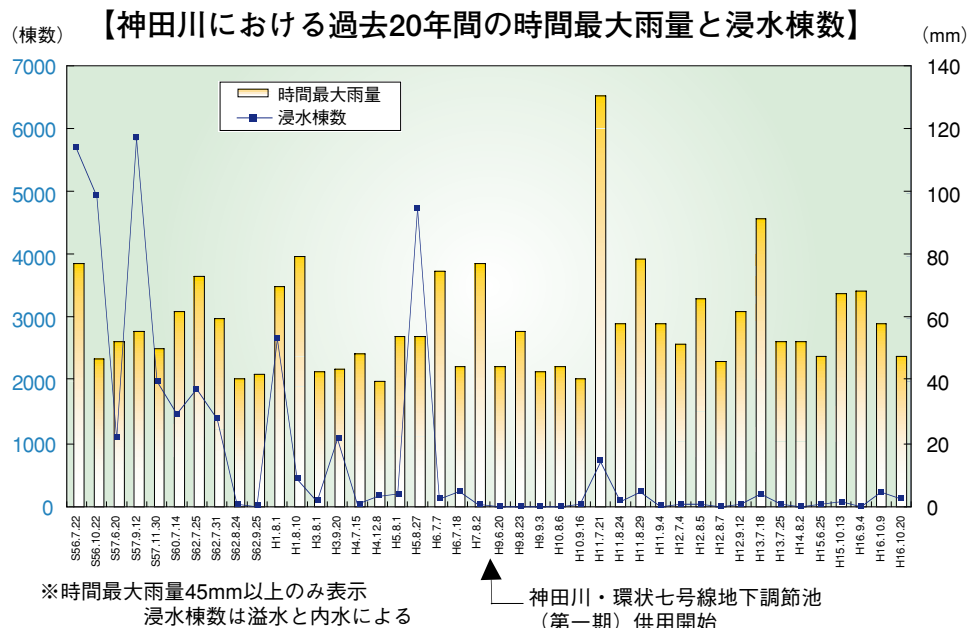
平成12年7月洪水（幸手市緑台2丁目地先）



平成14年7月洪水（幸手市緑台2丁目地先）

神田川・環状七号線地下調節池の効果

時間最大雨量と浸水棟数をみると、神田川・環状七号線地下調節池（第一期）供用開始後の平成9年度以降、**浸水棟数は明らかに減少**し、整備の効果があった。

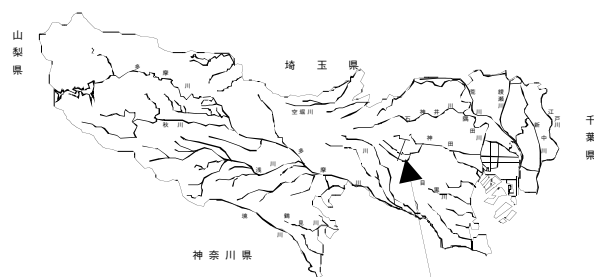


○事業の概要・目的

神田川・環状七号線地下調節池は、水害の多発する神田川中流域に将来計画している「環七地下河川」を先行的に整備し、当面これを調節池として利用するものです。

トンネル規模が大きいことや、早期に事業効果を発揮させるため、第一期事業と第二期事業に分割して実施しています。

第一期事業は、平成9年度から供用開始し、現在、第二期事業を実施中です。



神田川・環状七号線地下調節池

《調節池の内部》



《シールドマシーン》



施設概要	全体計画	第一期	第二期
貯留量	54万m ³	24万m ³	30万m ³
トンネル延長	4.5km	2.0km	2.5km
トンネル内径	12.5m (土被り約40m)		
取水施設	2か所	神田川	善福寺川
事業費	約1,030億円	約540億円	※約490億円

千曲川（飯山地区改修）における治水効果【長野県飯山市】

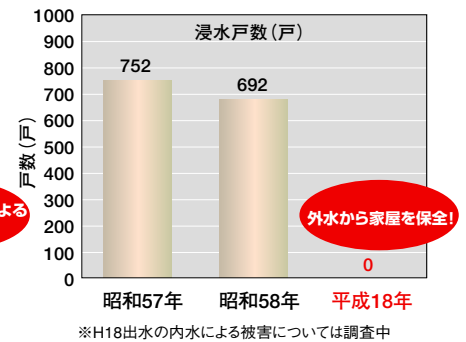
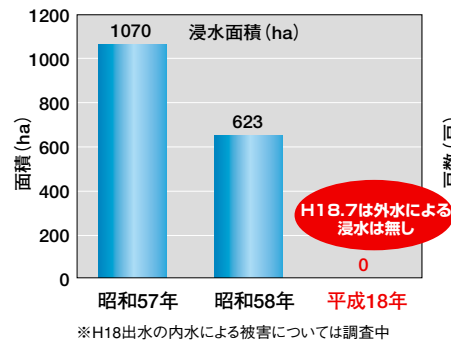
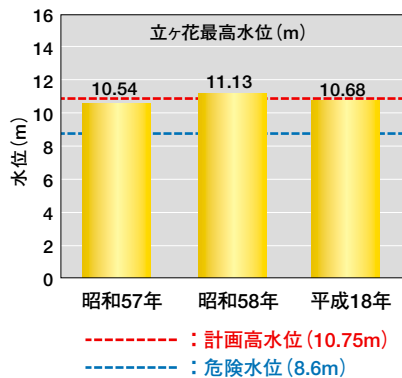
平成18年7月に飯山市を襲った梅雨前線豪雨で効果発揮

平成18年7月豪雨による洪水は昭和57年9月、昭和58年9月洪水と同規模であったが、「激甚災害対策特別緊急事業」等の効果により浸水被害等で大幅な減少が見られた。

昭和57年の台風18号及び昭和58年の台風10号と今回豪雨での水位と浸水被害比較

●H18.7豪雨出水は
S57.9,S58.9と水位が同規模

●同規模出水であったが外水による被害無し



改修前の出水状況

(昭和58年9月台風10号)



改修後の出水状況

(平成18年7月豪雨・梅雨前線)



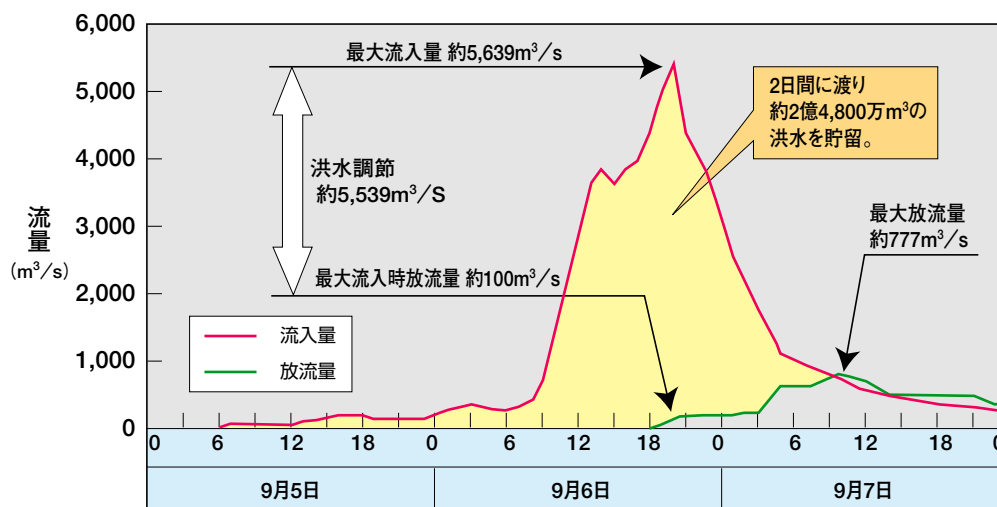
**H18.7は外水による
浸水は無し**



- 昭和58年9月浸水区域
- 昭和57年9月浸水区域

台風14号における早明浦ダムの効果【高知県・早明浦ダム】

平成17年台風14号により、早明浦ダムでは管理開始以来2番目の記録となる最大5,640m³/sの流入量（計画高水流量4,700m³/s）を記録しました。この洪水により利水及び治水容量の約94%にあたる**約2億4,800万m³をダムに貯め込み、下流の被害軽減**に大きな効果を発揮しました。

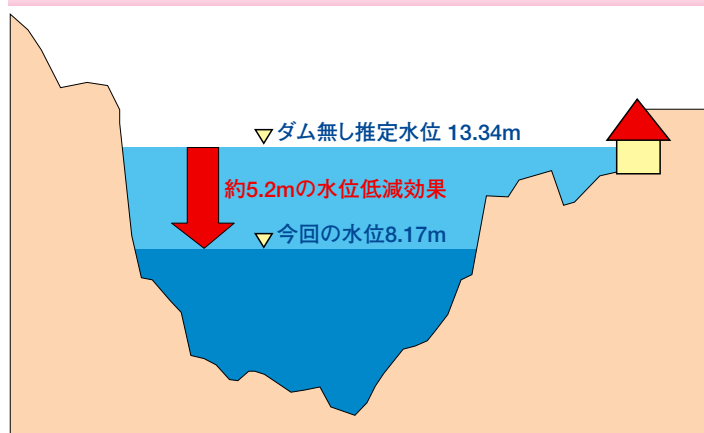


出水前 貯水率0%（9月5日9時頃）

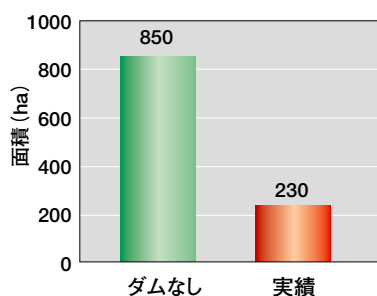


出水後 貯水率100%（9月7日9時頃）

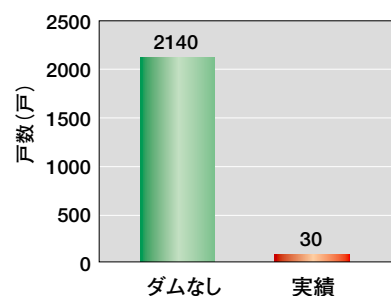
高知県本山町・本山橋付近



浸水面積の低減効果



浸水家屋の低減効果



浸水面積・浸水家屋戸数とも激減

注) 実績浸水被害データはH17.9.20現在の暫定値、ダムなしの被害データは氾濫シミュレーション結果による